

7 月中旬頃に発生するネギの病害



1. ネギ萎凋病

根は腐敗消失、下位葉から黄化、萎凋し枯死に至ります。下位葉鞘が基部から黒褐変腐敗することもあります。茎盤部の道管は褐変しているのが特徴です。

腐敗根は脆くなっており、ピンセットでつまんでポロっと取れてくる根を顕微鏡で観察すると、三日月形の分生子が形成されているのを確認できます。



2. ネギ白絹病

地下部から地際部にかけて、軟化腐敗し、白色、絹状の菌糸束で覆われます。この後、菌糸束の消失とともに、粟粒状の菌核が形成されてきます。このときは菌糸束中に菌核の原基が形成されつつありました。

土壌中に残存する菌核が感染源ですが、菌糸束による地上部での感染拡大も生じます。



3. ネギ軟腐病

葉身の基部から暗緑色に軟化腐敗し、悪臭を放ちます。

軟化腐敗部には運動性の細菌細胞が充満しています。顕微鏡で観察すると、病原細菌の感染を受けている細胞は黒っぽく見えます。軟化崩壊部から溢れ出る病原細菌も黒煙のように見えています。